

# 市立73校の放射線量調査 6割が基準値超

横須賀市

11月から横須賀市内の全市立学校で放射線量の測定を始めた市教育委員会は30日、73校すべての調査を終えた。調査の結果、全体の約6割に当たる42校で市の基準値(毎時0・59マイクロシーベルト)を上回る数値が検出された。

(服部 エレン)

11月1日から1カ月間、校庭や校舎屋上、側溝、排水口など各校の10〜40カ所で実施。校長や教頭の立ち会いの下、地表高1メートルの放射線量を市職員がサーベイメーターで測定した。この夏にも全市立学校の校庭で測定を行ったが、10月下旬に鶴久保小学校

(不入斗町)の側溝で高めの数値が検出されたことを受け、あらかじめ実施した線量が高かった場所は、屋上の排水口や体育館脇の集水ますなど土のたまりやすい部分。市教委によると、最も高い数値が検出されたのは浦賀小の屋上で毎時2・60マイクロシーベルト(地表高1メートル)



中学校の屋上で放射線量を測定する横須賀市の職員—11月28日、同市内

市は汚染土を土のう用の袋と2重のポリ袋で密閉し、仮処分として学校敷地内の地中に埋める除染措置を取っている。基準値を超えた42校のうち6校で埋設作業を完了(30日現在)しており、残り36校では倉庫などの児童生徒が立ち入らない安全な場所に保管し、12月中旬に埋める。

敷地内に埋めることについて、保護者から市に対して不安の声も寄せられているが、市は「学校外で処理できる敷地がない。国が最終処分場を決めるまでは現状のまま」と説明。来年2月にも埋設場所の数値を測定し、放射線量を確認するという。

校内の5カ所以上で基準値超えの数値が検出された学校は、浦郷小、汐入小、浦賀小、鴨居小、横須賀総合高の5校。市は、各校の調査結果と汚染土の埋設場所を順次市のホームページで公開する。